ふくしまのミュージアム①

寄稿

福島県立美術館

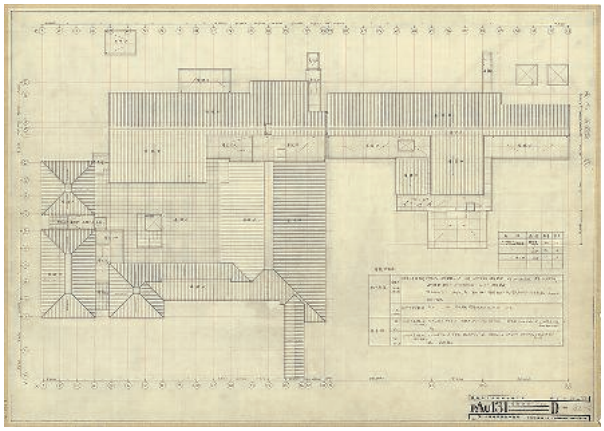
収蔵作品の充実をはかり、
貴重な文化財である美術品の保存につとめ、
継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を
積極的に展開するとともに、
美術に関するさまざまな情報を提供します。

〒960-8003
福島市森合字西養山1番地
Tel.024-531-5511　Fax.024-531-0447

ふくしまのミュージアム①

外観

エントランスホール



大髙建築設計事務所　福島県立美術館建設工事
屋根状図　1:200　1982年

福島県立美術館が開館したのは1984（昭和59）年のことです。当時、日本では「地方の時代」「文化の時代」といわれ、全国で美術館建設ブームが起きていました。そのような時代背景のなか、1976年に就任した松平勇雄知事は、文化水準の向上、文化・教育施策の重視の方針を打ち出し、「文化を考える県民会議」や「文化振興会議」などを経て、県立の博物館・美術館・図書館の３館が建設されることになりました。

当館は福島市の信夫山の南麓に、県立図書館と隣接して建てられました。当館の設計は、三春町出身の戦後日本を代表する建築家・大髙正人（1923～2010）が率いる大髙建築設計事務所によるもので、信夫山を借景にした、環境を最大限に活かした建築となっています。建物前面には信夫山と空が映り込む池のほか、広い芝生があり、犬の散歩など人々の憩いの場として親しまれています。

館内に入ると、柱が立ち並ぶ吹き抜けのエントランスホールがあり、マリノ・マリーニ（1901～1980）の《騎手》が来館者を出迎えます。建物は２階建てで、半地下となっている１階では主に企画展を開催し、当館ではこれまで200回以上の展覧会を開催してきました。一方、２階の常設展示室では当館の収蔵作品によるコレクション展を開催し、年４期に分けて展示替を行いながら、常時約100点の作品を展示しています。常設展示室は、部屋ごとに壁の材質に変化がつけられており、切妻型の屋根の形に合わせた高い天井のなか、ゆったりと鑑賞をたのしむことができます。

収蔵作品は、開館当時は600点ほどでしたが、これまでの活動のなかで質量の充実につとめた結果、現在は4,000点以上に上ります。本県出身作家を中心に、日本の近現代美術の流れを展望できるコレクションとなっています。

◇版画

当館が建設されることになり、会津坂下町出身で、世界的に活躍した版画家・斎藤清（1907～1997）から、貴重な初期の作品を含む代表作の寄贈を受けました。最終的には約500点にもなり、当館では定期的に回顧展を開催しているほか、コレクション展でも必ず展示するようにしています。版画は、斎藤作品を中心に、創作版画や現代版画のコレクションを充実させています。

◇日本画

酒井三良（1897～1969）や大山忠作（1922～2009）ら県作家作品のほか、速水御舟（1894～1935）ら日本を代表する作家の作品を収集し、近現代日本美術史の流れのなかで体系的に紹介できるようにしています。

◇洋画

二十歳で夭折した白河出身の関根正二（1899～1919）は、大正時代を象徴する画家として近代日本美術史上に位置付けられており、当館は最も多くの作品を所蔵しています。関根や岸田劉生（1891～1929）などの大正洋画のほか、昭和から現代に至る作品を系統的に収集しています。

◇海外

風光明媚な自然に恵まれた本県には、近代以降多くの作家が訪れており、そうした観点から海外作品も風景画に主眼が置かれました。日本の作家に影響を与えた印象派はクロード・モネの《ジヴェルニーの草原》などを収蔵しています。また、海外作品のもうひとつの柱はアメリカの具象絵画で、アンドリュー・ワイエス（1917～2009）やベン・シャーン（1898～1969）の作品は日本有数のコレクションとして知られています。

今年開館40周年を迎える当館では、８月３日から記念展第二弾として「みんなの福島県立美術館その歩みとこれから」を開催いたします。本展では、当館の歩みについて、コレクションや当時の資料とともに振り返り、また、日々の活動や仕事についてもご紹介する予定です。

多くの方が美術館に足を運ばれるのは展覧会ですが、そうした展示活動のほか、美術館としての大事な仕事のひとつに、文化財としてのコレクションを未来に守り伝えていく、保存の仕事があります。

美術館では、温湿度の整った展示室で、有害な紫外線等を発しないライトを使用して、照度や展示日数も調整したうえで作品を展示しています。作品は定期的に状態を点検し、問題が生じた場合には、修復などの処置を施します。こうした美術作品を守り、現在と未来の来館者の方々に、よい状態で鑑賞いただくためのさまざまな活動につい

酒井三良
《雪に埋もれつつ正月はゆく》
1919年

関根正二
《姉弟》
1918年

佐藤玄々（朝山）《牝猫》
1928年
横井美恵子コレクション

速水御舟
《女二題　其二》
1931年

岸田劉生
《静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）》
1918年

クロード・モネ
《ジヴェルニーの草原》
1890年

修復の様子

アートカード

ても、本展では具体的にご紹介する予定です。いわば美術館の「みえない仕事」をご覧いただく、またとない機会になります。

また、当館では、美術をたのしんでいただくための取り組みも数多く行っており、そうした活動についてもご紹介します。

当館では、ギャラリートークや講演会、団体解説などの鑑賞プログラムのほか、作家とともに創造するたのしみを体感する創作プログラムなどを開催しています。館外では、学校の先生方の協力のもと、作家とともに生徒が制作を行う「おとなりアーティスト」や、当館コレクションが印刷されたアートカードを使った授業などが行われています。また、視覚障がい者の方に美術作品を楽しんでいただくための鑑賞講座も行っています。

本展開催期間中には、鑑賞補助教材のひとつであるアート・キューブを実際に体験していただく機会も設けており、ぜひご参加いただければ幸いです。

美術館は、どのような方にも開かれた公共の場です。美術に触れることで、多くの方に豊かな時間を過ごしていただきたいと願っています。

地域の文化の保存と創造の場として、時代の変化に応じながら、当館は今後も県民のみなさまとともに歩み続けていきたいと思っています。

アート・キューブ

会期中のイベント

●講演会①「絵のこと、生きること―私の『美術館』論―」
講師：窪島誠一郎氏（戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主）８月10日（土）
●講演会②「福島県立美術館―コレクション事始め」
講師：早川博明氏（当館元館長）９月１日（日）
※両講演とも14:00～15:30　会場：講堂　定員250名（申込不要、当日先着順、聴講無料）

●担当学芸員によるギャラリートーク
９月７日（土）14:00～15:00　会場：企画展示室（申込不要、企画展観覧券が必要です）
●アートキューブでにぎやか鑑賞会
８月24日（土）・25日（日）・９月16日（月・祝）10:00～10:40　　会場：企画展示室
（各開催日の３日前までに電話または HP でお申し込みください。企画展観覧券が必要です）

◆福島県立美術館開館 40周年記念展
みんなの福島県立美術館　その歩みとこれから
2024年８月３日（土）～９月16日（月・祝）
休館日：月曜日（８月12日、９月16日は開館）、８月13日（火）
観覧料：一般・大学生600（480）円、高校生300（200）円、小・中学生200（100）円
＊（ ）内は20名以上の団体料金